# 合格体験記　私の司法試験合格法

D・F

## １　経歴・法曹志望の動機

2017 年　明治大学法学部　入学
2021 年　明治大学法学部　卒業
2021 年　京都大学法科大学院（既修）　入学
2023 年　京都大学法科大学院（既修）　修了
2024 年　司法試験合格

大学１年の頃、法学部主催の予備答練などで弁護士先生から弁護士という職業の魅力を語ってくださったことや、法曹を目指す友人が頑張っている姿を見て、自分も大学生活の中で夢中になれるものを得たいという思いがきっかけとなり、弁護士を目指すようになりました。令和５年に一度不合格となり、令和６年に再受験し合格しました。

## ２　短答式の勉強方法

短答式については、予備校から出ている過去問の演習に取り組みました。もっとも、その演習に際しては、どれだけ丁寧に一問一問と向き合うことができるか、という点が重要であると思います。

不合格だった年は、過去問を一周して、間違えた選択肢だけを択一六法にマークしておき、それを直前期に見返すという勉強をしていましたが、結果は 126/175 点と平均的な数値でした。

そこで、私は、基本書（予備校本）を読んだ上で、過去問を解き、判例六法（憲法については逐条テキスト）に出題された選択肢を解くのに必要な知識をマークやメモで残し、再度同様の知識が過去問で出題されている場合には毎回そのマークやメモを確認するようにしていました。結果として、過去問自体を解いたのは１周でしたが、全体で 143/175 点をとることができました。

短答式は、全体の配点に占める割合こそ少ないですが、合格ボーダー層はまさに１点の取り合いであり、短答式の一問で合否が決まっていることも多々あります。また、短答式で平均的な受験生よりも高い点数を取っておけば合格発表まで少しは安堵して過ごすことができます。そういった観点から、短答式も軽視することなく、８割以上の獲得を目標に勉強すべきであると思います。

## ３　論文式の勉強方法

私は、一度目の試験までは先進的な法律論や重要性の低い判例を踏まえて論証を肥大化させる等、極めて非効率的な勉強をしていました。その結果、一度目の試験の論文式はほとんど点数が入っておらず、見るに堪えない成績となってしまいました。そこで、そのよ

うな学習方針を見直して、法律論をコンパクトにして、当てはめにフォーカスした学習を心がけました。

当てはめは、出題趣旨・採点実感、予備校の論述例を基に、どのような事情をどのように評価すれば良いのかを丁寧に分析し、それを一元化教材にストックし、暗記していました。

演習については、週に２～３回ほど過去問をフルスケールで書き、残りの時間は自分の答案を自分で添削し、論証や当てはめ、処理手順について丁寧に復習していました。私は、優先度の高い過去問については出来る限り起案し、そのほかの問題についても答案構成だけでもするように心がけていました。結果として本試験の過去問は 14～15 年ほど解きました。優先度については加藤ゼミナールの HP を参考にしていました。

また、時間が許す限りは、判例百選を用いて答案構成をする、市販の演習書を用いる等によって網羅性を確保すべきではあると思いますが、本試験や予備試験の過去問の演習の方が優先度は高いと考えます。本試験や予備試験で出題された事項については周囲の受験生がしっかりと出題趣旨や採点実感に則った答案を書いてくるため、過去問をどれだけ丁寧に分析しているかどうかで大きく差がついてしまうからです。

なお、一元化教材は、上三法と民事訴訟法は自作のまとめノートを、そのほかの科目は趣旨規範ハンドブックを裁断して使用しました。

４　その他合格に役に立つと考えている方法

個人的な意見として、司法試験に落ちる原因の最たるものは勉強の方向性を見誤ったことに尽きると考えています。それを一人で軌道修正することはとても難しいと思います。そのため、司法試験に落ちて再受験する際には、素直に合格者の声に耳を傾けて合格者の視点をトレースすることをお勧めします。

再現答案を書き、直近の合格者に評価をつけてもらう。過去問をフルスケールで書き、どこがダメでどういう勉強をすればいいのか、何を暗記すればいいのか、どのように問題・解答に向き合うのか……それら全てを合格者から聞き出して自分の中で昇華し、これと心中する覚悟をもって挑むことが合格への近道であると考えます。

私も、令和５年に不合格だった際には、二人の合格者に再現答案を評価してもらい、試験直前まで７回ほど答案を見てもらいながら、上記の事柄について事細かに質問していました。結果として、合格者の視点をトレースすることが司法試験合格に結びついたのだろうと思います。

また、目標を現実的な数値に設定することが、勉強の方向性を見誤らないために必要な事項であると思います。上位を狙って先進的な学説を論証に取り入れたり……といったことを防止することができますし、モチベーションの維持にもつながります。個人的には、短答式は 140 点、論文式は 500 位を目指せば、本番で下振れを引いても合格ボーダー層には乗ると考えています。

５　使用した基本書、参考書

メジャーな基本書は一通り揃えましたが、合格した年は、ほとんど出題趣旨・採点実感・予備校の模範答案・解説のみで勉強していました。基本書の扱いについては、「司法試験に合格する」という目標との関係では、演習に際してメジャーな基本書を一冊だけ手元に置いておき、出題趣旨等を見ても分からない事項があれば調べるといった程度で十分だと思います。

憲法：合格思考憲法（改訂版）、憲法ガールⅠ（R･E）、憲法ガールⅡ
行政法：基本行政法（第３版）
民法：民法の基礎Ⅰ（第５版）、民法の基礎Ⅱ（第３版）、担保物権法（道垣内、第４版）、債権総論（潮見、第５版補訂）、債権各論Ⅰ（潮見、第３版）、債権各論Ⅱ（潮見、第４版）、呉基礎本・家族法
商法：会社法（高橋ほか、第３版）、ロープラ商法（第４版）
民事訴訟法：リーガルクエスト（第３版）
刑法：基本刑法Ⅰ（第３版）、基本刑法Ⅱ（第２版）
刑事訴訟法：基本刑事訴訟法Ⅱ論点理解編
知的財産法：過去問解析講座（アガルート）、特許法・著作権法（小泉、第２版）